

平成23年7月15日発行

北海道国際理解教育研究協議会

会長 中村 淳
事務局長 古里 和雄

会報 第79号



未来を拓く教育を求めて

北海道国際理解教育研究協議会
会長 中村 淳
(札幌市立みどり小学校 校長)

今年度、白石先生の後任として、会長を務めさせていただくことになりました。北海道の国際理解教育充実発展のために微力ではありますが、全力で取り組む所存であります。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、E S D実施計画書（我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画）が6月に改訂され公表されました。私たちが東日本大震災の経験を生かしながら、これまで以上に自然への理解を深めるとともに、自然との共生の在り方について考え、実現に向けて行動していくことが改めて確認されました。

また、今回改訂になりました新指導要領においても、社会が変化しようと、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく解決する資質や能力を育てていくことが重要なねらいとされています。

このような状況において、国際理解教育は、現実を直視しつつ、持続可能という視点から地球を捉える力を育てていくとともに、存在する課題を一つ一つ粘り強く解決していく力を培う場としてその重要性を増しているといえます。

本会におきましても、今年度は、規約の改正に伴い、各地区会員を北海道の会員として位置付けるとともに、新たに第10次研究がスタートするなど、北海道の国際理解教育のより一層の発展にむけて新たな取組を始めました。全道の仲間とともに、国際理解教育の確かな実践を全道、全国へ発信していきたいと考えています。そして、子どもたちが、自分たちの暮す地域を見つめることで、よりよい未来を創造するためにはどうしたらよいのかを考え、行動する力を育むことを目指して研究を進めいきたいと考えています。

是非、会員の皆様には、10月7日（金）8日（土）に旭川市で開催します第32回全道大会に参集いただき、北海道の国際理解教育の推進のための話し合いを深めていただくことをお願いいたします。

平成23年度活動方針

北海道国際理解教育研究協議会

1. 基本方針

21世紀を生きる北海道の子どもたちに、国際社会に貢献できる日本人としての資質を育成する国際理解教育の在り方を探る。

- ・学校教育における国際理解教育の在り方を、主に授業を通して深める。
- ・新しい教育改革の流れの中で、国際理解教育の果たすべき役割を探る。
- ・各地区との交流を深め研究交流を推進し、その成果を各地区の国際理解教育に生かす。

2. 事業内容（教育研究団体として北海道の教育に貢献する）

- (1) 全道大会を開催し、研究成果を交流する。
- (2) 研究成果の交流のため、「研究集録」や「研究紀要」を発行する。
- (3) 「会報」を発行し、研究の成果や情報を交流する。
- (4) 地区との連携を密にし、組織を強化し、研究内容を深化すると共に各地区の研究推進に協力する。
- (5) 派遣教員と帰国教員に対し、研修会を開催し、それぞれ支援する。
- (6) 国際理解教育に必要な各種資料を収集し、インターネットでの情報提供や交流を行う。

3. 23年度の重点

- (1) 第32回北海道国際理解教育研究大会 旭川大会の成功を図る。
 - ・教育研究団体として会員の資質向上と研究の深化を図る。
 - ・北海道の国際理解教育の向上に努める。
- (2) 研究の中核として「地区」「北海道」そして「全国」へとつながっていく組織づくり
- (3) 各地区に密着した各地区の研究の深化と交流を図る。
 - ・研究主題を共通の窓口としながら、各地区の主体性を発揮した研究を推進する。
 - ・各地区や時代の要請を生かした研究を進め、会員の意識の向上を図る。
 - ・帰国教員の貴重な体験を各地区の教育に生かす。
- (4) 「未来を生きる力」をはぐくむ国際理解教育の在り方を探る。
 - ・10次研究への研究体制を確立する。
- (5) 小学校外国語活動についての取組を進める。
 - ・小学校外国語活動の在り方を各地区で研究や研修をもとに実践を積み、研究大会などで交流を深め、よりよい外国語活動の進め方を探る。

お願い

東北地方太平洋沖地震に遭われた被災者の皆様へ

3月11日に発生した未曾有の大震災でしたが、あの日から4ヶ月が過ぎた今でも、被災に遭われた方々の心は癒されておられません。現在は、日本をはじめ、世界各地から寄せられた義援金、支援物資をもとに明日への復興を信じて被災地域の方々は力を合わせ、復興への歩みを進めております。このような中、私たちと共に国際理解教育を推進している「全国海外子女教育国際理解教育研究協議会」から全国の「国際理解教育研究諸団体」に対して、義援金の要請がありました。会員の皆様の中には、所属校や個々で義援金を送付されている方もいるかと思いますが、本研究会としても被災に遭われた方々へ復興への願いを込めて、二万円ですが義援金を贈らせていただきました。趣旨をご理解いただき、ご了承くださいませようお願いいたします。

平成23年度・研究推進について

研究部

1. 基本方針

児童・生徒が「自分の生き方」に誇りをもち、自分の未来と地球の未来に対して責任を担うことができる生き方を創造する場としての国際理解教育の在り方を明らかにしていく。

2. 23年度の研究【 第10次研究の1年目 】

今後は、さらに「行動力」を支える豊かな心をはぐくむことも大切にしていきたい。とくに、「つながり」や「関係性」をキーワードに、他者に関心をもち、他者との違いを認め、他者のよさを感じ、自分の中に取り入れることができるような共によりよく生きていこうとする姿勢をもつ子どもの育成を目指したい。そのためには、「新たな（多元的な）視点を取り込み、共感的に他者を理解する力」「地球的な視点で物事をとらえ、判断する力（柔軟な思考力）」が重要であると捉え、実践を支える「（主体的）行動力」の育成を引き続き研究の視点に据えていきたいと考える。

そこで、研究主題は第9次研究の主題を引き続き継続し、「めざす子どもの姿」「めざす授業の姿」をより進化（深化）させていきたいと考える。

【 第10次研究主題 】

自分と地球をつなぎ、未来を切り拓く児童生徒の育成

めざす子どもの姿

地球的な視野をもち、よりよい未来のために

仲間とのつながりを大切に主体的に行動する姿

「異文化理解」から「多文化共生」へと児童生徒の意識を高めていくことが大切である。

そのためには、国際社会すなわち多様な他者の中で対話を通して人との関係（つながり）をつくり出す力をはぐくむことが必要である。そこで、人（他者）との関係をつくり出し、積極的に行動していこうとする、

- ① 他者に関心をもち、他者との違いを認め、他者のよさを感じ、自分の中に取り入れることができるような豊かな心をもつ子ども
- ② 共によりよく生きていこうとする姿勢をもつ子ども

の育成を目指す。

また、国際社会において、他者（他国）とのかかわり（つながり）を意識しながら行動するための素地として、

- ・ 新たな（多元的な）視点を取り込み、共感的に他者を理解する力
- ・ 地球的な視点で物事をとらえ、判断する力（柔軟な思考力）

が重要であると捉え、実践を支える「（主体的）行動力」の育成を研究の視点に据える。

めざす授業の姿

仲間と共に、問題を解決し地球の未来のために

新たな価値を創造する姿を求めて

「行動力」は、社会性の発達にともなって育っていく。子どものかかわる対象が、自分に身近な他者から、少しずつ広がっていくからである。国際理解教育部が今まで一貫して主張してきた「身近なところから問題を見つけそしてその問題解決に向けて行動することが大切」という考え方にもつながると考える。

つまり、自分たちの生活している地域や社会を見つめ直し、社会や人とのかかわりを意識する（実感する）ことが大切であるとする。加えて、地域の魅力を探究し、その魅力を発信することで改めて地域の人・自然・歴史・文化を意識することへとつながる。このことは、地域の自然・伝統と文化（人の営みの含めて）についての理解（考え）を深めることになる。そして、他国の人々が自国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることを理解し、これを尊重する態度（姿勢）をはぐくむことにつながる。言い換えると、国際理解の素地を養うことになるのである。

そのためには、授業（単元）が学校の教育課程に明確に位置づいていることが重要である。小学校の教育課程の中で一貫して子どもたちが学んでいけることが、国際理解教育を単に知識理解にとどめることなく、教科・道徳・総合的な学習の時間などあらゆる学校教育の場で体験的な学びを生かし、問題解決的な学習を展開することを実現できるからである。

また、そのことにより、子どもたち一人一人に、

- ・ 地球的な視野に立ち、共通の目的をもって協働し、問題を解決していこうとする態度を育てる。
- ・ 異なった文化をもつ人々と積極的にかかわろうとする意欲を高める。
- ・ 相手の立場を尊重し、互いの違いやよさを認め合おうとする態度を育てる。
- ・ 自国の文化理解に根ざした自己の確立を図る。

ことを可能にするのである。

さらに、国際理解教育が教室の中だけにとどまっているのではなく、自らの生き方に反映され、社会へと開いていく必要がある。授業（単元）だけではなく、日々の生活における様々なかかわりを意識させることが、意識をさらに高めることにつながると考える。学校生活全体、家庭や地域、社会という教室から開かれた「空間」「時間」が具体的な行動の場であって、実践する力が発揮される場なのである。授業（単元）を通して高まった意識を行動にあらわすことによって、対象とのかかわりやコミュニケーションが生まれる。この連続が視野を広げ、判断する力（柔軟な思考力）をはぐくむことになるのである。

◎研究の視点

視 点 1

子どもと地球をつなぐ教材づくり

子どもに、地球的な規模を投げかけても、グローバルな視点から問題解決にあたることは難しい。学びの中で、繰り返し地域と地球とのかかわりを実感させ、「地球」への思いをめぐらせる中で行動化につなげていかなければならない。

この体験を通して、子どもは、自分中心の見方から、違いを違いとして受容する多様性や、地球では全ての人（もの）が互いに依存しながら生きているという地球的な視野に立った考え方や態度をはぐく

み、共に地球の未来について行動していくことを学んでいくのである。

教材化を図るときには、「E S D」の理念を理解し、教材化を進めていきたい。

視 点 2

地球的な視野をもち、共に問題解決していく 学習活動の構築

地球的な視野をもつ子どもをはぐくむためには、仲間と共に、多様な考えを受容しながら、共感的に解決することが求められる。

そのため、問題解決の場面においては、自分の考えに固執することなく、意見が対立する場面においては、共に新しい視点をつくり出し、共通の目的のために自分の力を発揮することが求められる。そのため、授業では、他者（教室の仲間だけでなく地域の人々そして、地球の人々）とかかわりあう場面を積極的につくり出すとともに、子どもが他者と対話しながら、行動に向けてあらたなかかわりを創り出していく学習活動を構築したい。

◎小学校外国語活動について

今年度より小学5・6年生に年間35時間の外国語活動が完全実施されている。本会においては第7次研究の時から取り組み、国際理解教育の手立てとして有効であることが確かめられている。また、そのためには、外国語を異文化ととらえ、「担任の教師が教える」「音声を大切する」など基本的な取組の重要性も確認された。

新学習指導要領実施に伴って「小学校外国語活動」がすべての学校で取り込まれることになる。その中で、カリキュラムをどう組んでいくかという課題はもちろんあるが、「小学校外国語活動」を通して地球的な視野をもつ子どもをどのように育てていくか、ビジョンをもって取り組まなければならないと考える。すでに、「めざす子ども像」や「授業像」をしっかりと定めてカリキュラムを編成している地区もあるが、「国際理解教育」としての「小学校外国語活動」をどのように位置づけて取り組むのか、実践を通して確認していく必要がある。

そこで、第10次研究では、小学校外国語活動の実践交流を通して「地球的な視野をもつ子どもを育成するために国際理解教育としての小学校外国語活動のあり方」について検証していきたい。

お知らせ

第32回北海道国際理解教育研究大会 上川・旭川大会

今年度よりスタートした10次研究ですが、上川・旭川大会をもととして会員の皆様に深めて参ります。是非、たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

日 時：平成23年10月7日（金）・8日（土）

会 場：旭川藤女子高等学校・旭川藤幼稚園

授業公開：幼稚園（英語活動）、小学校（3年・社会、6年・外国語活動）

中学校（1年・道徳）、高校（3年・国際事情）

北教大旭川校（留学生によるテーマセッション）

講演会：第46次日本南極地域観測隊に参画して

講師：古崎 睦 氏



平成23年度・北海道国際理解教育研究協議会事務局名簿

役職名	氏名	学校名	職名
顧問	白石邦彦	札幌市立清田小学校	校長
会長	中村淳	札幌市立みどり小学校	校長
副会長	林英雄	札幌市立真栄中学校	校長
監査	松岡洋一	札幌市立米里小学校	校長
監査	角田成子	札幌市立澄川小学校	校長
事務局長	古里和雄	札幌市立盤溪小学校	校長
次長	類家 齊 (総括・帰国)	札幌市立東光小学校	校長
次長	橋本直樹 (後志)	神恵内村神恵内中学校	校長
次長	森雅彦 (札幌)	札幌市立南月寒小学校	校長
次長	山川修 (十勝)	上土幌町立上土幌小学校	教頭
次長	菅原敏明 (オホーツク)	北見市立南小学校	教頭
次長	荒川浩一 (釧路)	釧路市立景雲中学校	教頭
次長	橋詰典明 (石狩)	千歳市立富丘中学校	教頭
次長	山上昌彦 (胆振)	室蘭市立大沢小学校	教頭
次長	菊池安吉 (上川)	旭川市立光陽中学校	教頭
次長	加藤康徳 (空知)	芦別市立上芦別小学校	教頭
次長	石山史 (函館)	函館市立弥生小学校	教諭
次長	齋藤吉文 (庶務)	札幌市立東川下小学校	教頭
次長	広瀬保志 (組織)	札幌市立西岡小学校	教頭
次長	川崎真 (会計)	札幌市立上野幌西小学校	教頭
次長	島田裕文 (広報)	札幌市立光陽小学校	教頭
次長	石原和人 (研究)	札幌市立白楊小学校	教頭
次長	五十嵐直幸	札幌市立山鼻中学校	教頭
次長	綱渕友也	札幌市立常盤小学校	教頭
次長	中村邦彦	札幌市立中島中学校	教頭
次長	白川典洋	札幌市立厚別西小学校	教頭
次長	港則之	札幌市立東白石小学校	教頭
庶務部長	中池徳幸	札幌市立二条小学校	教諭
副部長	早川崇律	札幌市立平岡小学校	教諭
部員	塩田英樹	札幌市立栄東小学校	教諭
部員	横川隆	札幌市立ひばりが丘小学校	教諭
部員	箭内浩之	札幌市立真駒内曙小学校	教諭
会計部長	福田栄喜	札幌市立東山小学校	教諭
副部長	大原拓幸	札幌市立南小学校	教諭
広報部長	小松裕和	札幌市立元町小学校	教諭
副部長	二ツ山徹	札幌市立澄川小学校	教諭
部員	鶴田正道	札幌市立山鼻南小学校	教諭
部員	佐々木歩	札幌市立大倉山小学校	教諭
部員	廣島直	札幌市立平岡公園小学校	教諭
組織部長	小野博史	札幌市立中の島小学校	教諭
副部長	矢萩尚子	札幌市立藻岩南小学校	教諭
部員	根岸良久	教育大学附属札幌小学校	教諭
部員	島野博光	札幌市立平岡南小学校	教諭
部員	安孫子和典	札幌市立定山溪中学校	教諭
部員	済藤和彦	釧路市立音別小学校	教頭
部員	山本和浩	別海町立中春別小学校	教頭
研究部長	菅野英人	札幌市立円山小学校	教諭
副部長	岩村鋭介	札幌市立緑丘小学校	教諭
副部長	西山昇	札幌市立石山中学校	教諭
副部長	高木千春	札幌市立豊平小学校	教諭
副部長	永洞純一	札幌市立福移小学校	教諭
部員	池田健人 (胆振)	苫小牧市立緑陵中学校	教諭
部員	中間靖之 (上川)	比布町立比布中学校	教諭
部員	原圭大 (釧路)	釧路市立朝陽小学校	教諭
部員	鈴木毅 (十勝)	帯広市立啓北小学校	教諭
部員	相馬一之 (オホーツク)	美幌町立美幌小学校	教諭
部員	佐藤貢 (石狩)	千歳市青葉中学校	教諭
部員	小泉寧 (空知)	岩見沢市立清園中学校	教諭

部員	長谷川 徹 (後志)	倶知安町立西小学校韮山分校	教 諭
部員	柳 田 美佳子 (函館)	函館市立駒場小学校	教 諭

平成23年度北海道国際理解教育研究協議会役員名簿

◆ 顧 問

大 泉 弘 (第5代会長)	石 田 省 子 (第6代会長)
山 内 武 道 (第7代会長)	高 橋 承 造 (第8代会長)
池 田 幸 一 (第10代会長)	後 藤 宏 (第11代会長)
白 石 邦 彦 (第12代会長)	

◆ 会長・副会長・監査・理事

役職名	地区名	氏 名	所 属 校	職 名
会 長	札 幌	中 村 淳	札幌市立みどり小学校	校 長
副会長	留 萌	笹 森 文 夫	増毛町立舎熊小学校	校 長
副会長	根 室	飯 田 輝 雄	別海町立別海中学校	校 長
副会長	後 志	徳 光 茂	倶知安町立西小学校	校 長
副会長	胆 振	泰 地 和 幸	室蘭市立東明中学校	校 長
副会長	檜 山	久 慈 学	厚沢部町立厚沢部小学校	教 頭
副会長	札 幌	林 英 雄	札幌市立真栄中学校	校 長
監 査	札 幌	松 岡 洋 一	札幌市立米里小学校	校 長
監 査	札 幌	角 田 成 子	札幌市立澄川小学校	校 長
理 事	上 川	藤 崎 良 二	富良野町立富良野西中学校	校 長
理 事	石 狩	冷 川 元 彦	北広島市立大曲中学校	校 長
理 事	小 樽	田 口 雅 一	小樽市立天神小学校	校 長
理 事	函 館	青 木 完 二	函館市立五稜中学校	校 長
理 事	渡 島	黒 田 仁 志	松前町立小島小学校	校 長
理 事	空 知	石 塚 信 彦	岩見沢市立美園小学校	校 長
理 事	日 高	會 田 眸	様似町立様似中学校	校 長
理 事	十 勝	笹 木 卓 三	帯広市立大空中学校	校 長
理 事	釧 路	藤 原 久 則	釧路市立幣舞中学校	校 長
理 事	オホーツク	吉 田 寛	訓子府町立訓子府小学校	校 長
理 事	宗 谷	久 保 俊 博	利尻町立本泊小学校	校 長

平成23年度

北海道国際理解教育研究協議会 各地区 役員名簿

地区名	役職名	氏名	所属校	職名
札幌	会長	中村 淳	札幌市立みどり小学校	校長
	事務局長	森 雅彦	札幌市立南月寒小学校	校長
石狩	会長	冷川 元彦	北広島市大曲中学校	校長
	事務局長	杉原 将貴	石狩市立厚田中学校	教諭
後志	会長	徳光 茂	倶知安町立西小学校	校長
	事務局長	吉田 貢	余市町立大川小学校	教諭
小樽	会長	田口 雅一	小樽市立天神小学校	校長
	事務局長	大磯 俊一	小樽市立銭函小学校	教諭
函館	会長	青木 完二	函館市立五稜中学校	校長
	事務局長	石山 史	函館市立弥生小学校	教諭
留萌	会長	笹森 文夫	増毛町立舎熊小学校	校長
	事務局長	塚田 崇	留萌市立留萌小学校	教諭
檜山	会長	久慈 学	厚沢部町立厚沢部小学校	教頭
	事務局長	黒川 貴功	今金町立今金小学校	教諭
渡島	会長	黒田 仁志	松前町立小島小学校	校長
	事務局長	三浦 将大	福島町立福島小学校	教諭
空知	会長	石塚 信彦	岩見沢市立美園小学校	校長
	事務局長	桐 渕 則行	岩見沢市立緑中学校	教諭
胆振	会長	泰地 和幸	室蘭市立東明中学校	校長
	事務局長	清水 卓	室蘭市立旭ヶ丘小学校	教頭
日高	会長	會田 眸	様似町立様似中学校	校長
	事務局長	榊 浩明	浦河町立第二中学校	教諭
十勝	会長	笹木 卓三	帯広市立大空中学校	校長
	事務局長	野中 利晃	帯広市立つつじが丘小学校	教頭
釧路	会長	藤原 久則	釧路市立幣舞中学校	校長
	事務局長	荒川 浩一	釧路市立景雲中学校	教頭
根室	会長	飯田 輝雄	別海町立別海中学校	校長
	事務局長	藤原 秋彦	別海町立中西別中学校	教頭
オホーツク	会長	吉田 寛	訓子府町立訓子府小学校	校長
	事務局長	菅原 敏明	北見市立南小学校	教頭
宗谷	会長	久保 俊博	利尻富士町立本泊小学校	校長
	事務局長			
上川・旭川	会長	藤崎 良二	富良野市立富良野西中学校	校長
	事務局長	中谷 扶美子	旭川市立忠和小学校	教頭